中学校 国語科 授業改善事例Ⅲ

第1学年

単元名「根拠を明確にしながら、自分の考えを伝えよう ～意見文を書く～」

1 本単元における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善のアプローチ

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の１つのアプローチとして、「生徒の学びの姿」と、「教師の働きかけ」の双方の視点から授業改善を図ることが有効だと考えられます。
本単元においては、次のような視点で授業改善を図ります。

	生徒の学びの姿	本単元における教師の働きかけ
「主体的な学び」	粘り強く取り組む。	・一人でも考えることができるように、ワークシートで思考を可視化できるように工夫する。
「対話的な学び」	生徒同士の協働や、教職員や地域の人との対話を通じ、自分の考えを広げ深める。	・立場を明確にした交流を行うことができるように、話合い活動の前に、自分の考えとその根拠をもたせるための時間を確保する。
「深い学び」	情報を精査して考えを形成する。 知識を相互に関連付けてより深く理解する。	・情報を精査することができるようにするために、集めた多様な情報を比較したり関連付けたりする場面を設定する。 ・既習の知識及び技能を関連付けることができるように、学習過程の中で既習の知識及び技能を活用・発揮する場面を設定する。

2 本単元の概要

※本単元の詳細はこちら 授業改善事例Ⅲ学習指導計画編

(1) 単元の目標

① 意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。 〔知識及び技能〕(2)ア

② 根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。 〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)ウ

③ 根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。 〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)オ

④ 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

(2) 指導と評価の計画（全４時間）

時	主たる学習活動	評価規準・【評価方法】
1	○単元の目標や計画をつかみ、学習の見通しをもつ。 ○グループで課題Ⅰに取り組む。課題Ⅰの新聞記事の内容と写真Ａ・Ｂの情報について確認する。 ○写真Ａ・Ｂの長所と短所をワークシート❶に整理する。 ○写真Ａ・Ｂのうち、どちらがよいと考えるか、グループの立場を決め、意見の根拠を挙げ、意見文の構成を考える。	
2	○グループで課題Ⅰの意見文を書き、グループ同士で相互に読み合い、感想を交換する。	
3	○個人で課題Ⅱに取り組む。課題Ⅱの新聞記事の内容と写真ア・イの情報について確認する。 ○写真ア・イの長所と短所をワークシート❷に整理する。 ○ワークシート❷に整理した写真ア・イの長所と短所について、友達と意見交流を行う。 ○写真ア・イのうち、どちらがよいと考えるか、自分の立場を決め、意見の根拠を挙げ、意見文の構成を考える。	［知識・技能］ 意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。【ワークシート❷・観察】 ［思考・判断・表現］ 「書くこと」において、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。【ワークシート❷・観察】
4	○根拠や自分の立場を明らかにして、意見文を書く。 ○グループで意見文を読み合い、感想を交換する。 ○単元全体の学習を振り返る。	［思考・判断・表現］ 「書くこと」において、根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。【意見文・観察】 ［主体的に学習に取り組む態度］ 根拠を明確にしたり、読み手の助言を踏まえて改善点を見いだしたりすることに粘り強く取り組み、学習の見通しをもって意見文を書こうとしている。【振り返りの記述（単元の計画表）・観察】

３ 本単元における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた教師の働きかけの具体例

ここでは、本単元における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた教師の働きかけの具体例を紹介します。

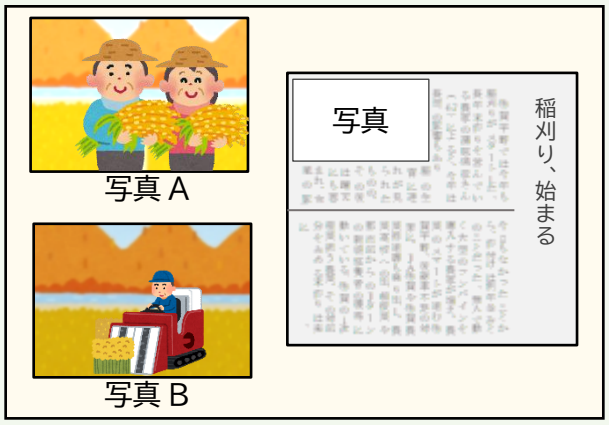
（１） 生徒の「粘り強く取り組む」姿、「情報を精査して考えを形成する」姿を実現する教師の働きかけ

生徒の学びの姿		教師の働きかけ
粘り強く取り組む。	「主体的な学び」	一人でも考えることができるように、ワークシートで思考を可視化できるように工夫する。
情報を精査して考えを形成する。	「深い学び」	情報を精査することができるようにするために、集めた多様な情報を比較したり関連付けたりする場面を設定する。

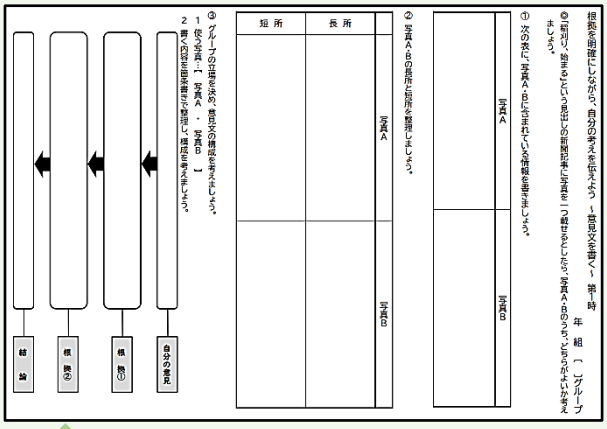
学習活動に粘り強く取り組み、情報を精査して考えを形成するために、ワークシートで思考を可視化できるようにすることや、集めた多様な情報を比較したり関連付けたりする場面を設定することが大切です。本単元では、「文章と組み合わせる写真としてふさわしいものを選び、その根拠を明確にして自分の考えが伝わる意見文を書く」という言語活動を、内容の異なる新聞記事を用いて、課題Ⅰ、課題Ⅱとして、２回行います。その際、提供するワークシートの構成を統一し、課題Ⅰで学習したことを活用して課題Ⅱに取り組むことができるようにすることで、粘り強く学習に取り組む姿につなげます。

本単元で取り組む言語活動…「文章と組み合わせる写真としてふさわしいものを選び、その根拠を明確にして自分の考えが伝わる意見文を書く」

課題Ⅰ（第1･2時）



資料1 課題Ⅰのイメージ

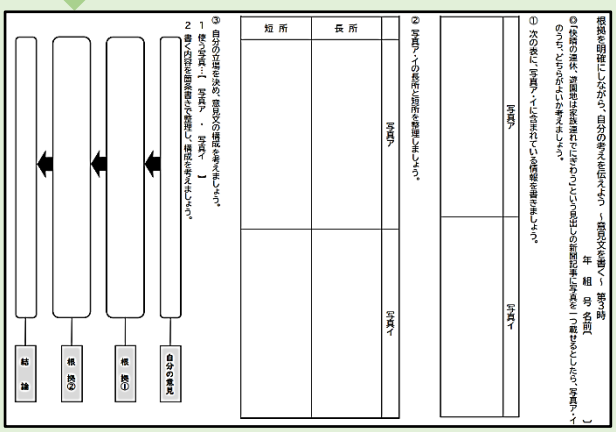


資料2 ワークシート❶

課題Ⅰ、課題Ⅱで提供するワークシートの構成を統一します。そうすることで、課題Ⅰで学習したことを活用して、課題Ⅱに取り組むことができます。

課題Ⅱ（第3･4時）

資料3 課題Ⅱのイメージ



資料4 ワークシート❷

また、提供するワークシートには、マトリックス表やステップチャートなどの思考ツールを用いることで、情報を比較したり関連付けたりして、情報を精査して自分の考えを形成することができるようにします。

≪課題Ⅱに取り組む場面（第3時）≫

ワークシート❷の①に記述する際の発問

課題Ⅱ（資料5）に取り組みます。「快晴の連休、遊園地は家族連れでにぎわう」という見出しの新聞記事に載せる写真は、写真ア・イのどちらがよいかを考え、意見文を書きます。
まず、ワークシート❷（資料6）の①に、写真ア・イに含まれている情報を書きましょう。

資料5 課題Ⅱ

ワークシート❷の②に記述する際の発問

①を基に、②のマトリックス表に、新聞記事の内容と照らし合わせて、写真ア・イの長所と短所を整理しましょう。

※マトリックス表に長所と短所を整理したあと、考えを広げ深めるために生徒同士の対話の場面を設定します。その具体については、次項を御参照ください。

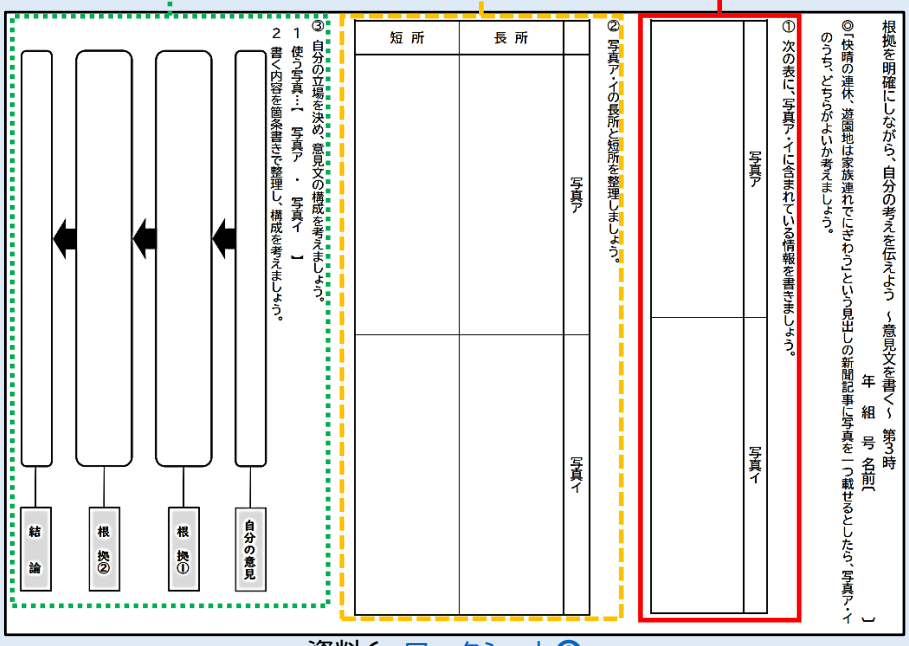
ワークシート❷の③に記述する際の発問

②を基に、③に取り組みます。写真ア・イのどちらがよいか自分の立場を決め、書く内容をステップチャートに箇条書きで整理し、意見文の構成を考えましょう。

③に、②で整理した長所と短所を基に、書く内容をステップチャートに整理し、意見文の構成を考える。

②に、①で書いた情報を基に、新聞記事の内容と照らし合わせて、マトリックス表で長所と短所を整理する。

①に、写真から読み取った情報を書く。



資料6 ワークシート❷

マトリックス表を使うと、①で書いた写真ア・イの情報を、長所と短所として整理しやすいな。

課題Ⅰのワークシート❶で学習したから、課題Ⅱのワークシート❷の取り組み方が分かるよ。

ポイント

学習活動に粘り強く取り組み、情報を精査して考えを形成するために、ワークシートで思考を可視化できるようにすることや、集めた多様な情報を比較したり関連付けたりする場面を設定することが大切です。
単元内で言語活動を繰り返す場合や、類似の言語活動を学習した経験がある場合は、提供するワークシートの構成を統一することで、生徒が考えを形成しやすくなり、粘り強く学習に取り組む姿につながります。

(2) 生徒の「生徒同士の協働や、教職員や地域の人との対話を通じ、自分の考えを広げ深める」姿を実現する教師の働きかけ

生徒の学びの姿		教師の働きかけ
生徒同士の協働や、教職員や地域の人との対話を通じ、自分の考えを広げ深める。	「対話的な学び」	立場を明確にした交流を行うことができるように、話合い活動の前に、自分の考えとその根拠をもたせるための時間を確保する。

生徒同士の対話を通じ、自分の考えを広げ深めるために、交流する前に、自分の考えをもつことができる時間を確保することが大切です。本単元では、課題Ⅱの写真ア・イの長所と短所について、友達と意見交流を行う前に、自分の考えをもつことができるように、ワークシートに記述する時間を十分に確保します。

≪課題Ⅱに取り組む場面（第3時）≫

課題Ⅱに取り組みます。「快晴の連休、遊園地は家族連れでにぎわう」という見出しの新聞記事に載せる写真は、写真ア・イ（資料7）のどちらがよいかを考え、意見文を書きます。まず、ワークシート❷の①に、写真ア・イに含まれている情報を書きましょう。

（ワークシート❷の①に、写真ア･イに含まれている情報を書く）

①を基に、②のマトリックス表に、新聞記事の内容と照らし合わせて、写真ア・イの長所と短所を整理しましょう。

自分の考えをもつ

写真アは遊園地全体の様子が映っていて、一目で遊園地だと分かるという長所があるね。

写真イは家族の写真だから、「家族連れでにぎわう」が伝わりやすいよ。でも、遊園地にいることが分かりにくいかもしれないな。

写真ア

写真イ

資料７ 課題Ⅱの写真ア･イ

写真ア・イの長所と短所について、友達と交流しましょう。

友達との意見交流で、自分の考えを広げ深める

友達との交流ができたら、黒板に写真ア・イの長所と短所を書きに来ましょう。

交流した考えを、全体で共有し、更に広げ深める

「根拠を明確にしながら、自分の考えを伝えよう ～意見文を書く～」

写真ア・イの長所と短所を整理しましょう。

	長所	短所
写真ア	観覧車やジェットコースターが写っているため、一目で遊園地だと分かる。 快晴の空が大きく映り込んでいるから、天気がよいことが伝わる。	人が写っていないため、家族連れでにぎわっているかどうか分からない。
写真イ	笑顔の家族が写っていて、遊園地を楽しんでいることが伝わってくる。 テーマパークでしか手に入らないグッズがあるから、遊園地だろうということは予測できる。	背景にピントが合っていないため、遊園地にいるのかどうか分かりにくい。 一組の家族をアップしていて、ほかの家族が写っていないにぎわっているか分からない。

資料８ 黒板の記述

写真アは、遊園地の全体像と空が映っていて天気が伝わるという長所があるんだね。

でも、写真アには家族の姿は写っていないね。
写真イは、家族の姿が写っているし、遊園地だという雰囲気も伝わってくるよ。

雰囲気よりも、遊園地だとはっきり分かる方がいいのかな。
新聞記事が伝えたい内容は何かを考えて、写真を選ぶことが大切だね。

ポイント

生徒同士の対話を通じ、自分の考えを広げ深めるために、意見交流をする前に自分の考えをもつことができるようにすることが大切です。
友達と意見交流した考えは学級全体で共有するようにし、その考えに触れることで、生徒が更に考えを広げ深めることができるようにしましょう。

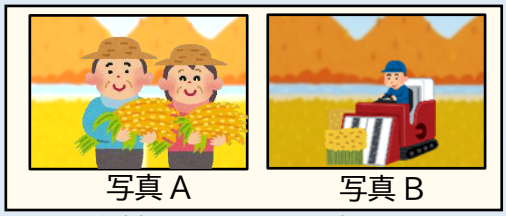
(3) 生徒の「知識を相互に関連付けてより深く理解する」姿を実現する教師の働きかけ

生徒の学びの姿	「深い学び」	教師の働きかけ
知識を相互に関連付けてより深く理解する。		既習の知識及び技能を関連付けることができるように、学習過程の中で既習の知識及び技能を活用・発揮する場面を設定する。

知識を相互に関連付けてより深く理解するために、学習過程の中で既習の知識及び技能を活用・発揮する場面を設定することが考えられます。本単元では、単元の目標を達成するために、「文章と組み合わせる写真としてふさわしいものを選び、その根拠を明確にして自分の考えが伝わる意見文を書く」という言語活動を、内容の異なる新聞記事を用いて、２回行います。単元の中で、知識及び技能を活用・発揮する場面を繰り返すことで、知識を相互に関連付けてより深く理解できるようにします。

≪課題Ⅰについて取り組む場面（第1時）≫

課題Ⅰに取り組みます。
ワークシート❶を用いて、「稲刈り、始まる」という見出しの新聞記事に載せる写真は、写真Ａ・Ｂのどちらがよいかを考え、グループで意見文を書きましょう。

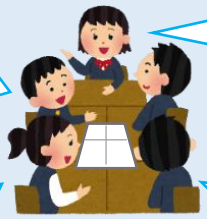


資料9 課題Ⅰの写真A･B

課題Ⅰに取り組む中で、知識及び技能を習得し、活用･発揮する

写真Ａの長所としては、よく実った稲穂の様子が分かるということが挙げられるね。

写真Ａは実際に刈り取っている様子は伝わらないね。



写真Ｂの長所は、コンバインで稲刈りしている様子が分かることだね。

写真Ｂにはどのような短所があると考えられるかな。

第Ⅰ時で課題Ⅰに取り組む場面では、グループで活動を行います。ワークシート❶のマトリックス表を用いて、グループで写真Ａ・Ｂの長所と短所について具体的に捉え、写真Ａ・Ｂのどちらがよいか考え、その根拠を挙げることができるようにします。このことにより、課題Ⅱに取り組む際は、個人でワークシート❷のマトリックス表を用いて情報を整理し、自分の考えをもち、その根拠について考える姿が見られるようになります。

≪課題Ⅱについて取り組む場面（第3時）≫

課題Ⅱに取り組みます。「快晴の連休、遊園地は家族連れでにぎわう」という見出しの新聞記事に載せる写真は、写真ア・イのどちらがよいかを考え、意見文を書きます。
まず、ワークシート❷の①に、写真ア・イに含まれている情報を書きましょう。
次に、①を基に、②のマトリックス表に、新聞記事の内容と照らし合わせて、写真ア・イの長所と短所を書きましょう。
ワークシート❷の書き方が分からないときは、学習計画表やワークシート❶を見て、第Ⅰ時の学習を振り返って、参考にしましょう。

課題Ⅱに取り組む中で、課題Ⅰで学習した知識及び技能を活用･発揮し、より深く理解する

ワークシート❷の①は、見て読み取ったことを書くんだよね。課題Ⅰのときは、ここで自分の主観を入れてしまったから、今回は気を付けよう。

ワークシート❷の②のマトリックス表の使い方は、課題Ⅰのときにグループで学習したから分かるよ。①で書いたことが長所か短所か、新聞記事と照らし合わせて整理しよう。

ポイント

知識を相互に関連付けてより深く理解するために、学習過程の中で既習の知識及び技能を活用・発揮する場面を設定することが考えられます。本単元では、同じ言語活動を２回行い、知識及び技能を活用・発揮する場面を繰り返すことで、知識を相互に関連付けてより深く理解できるようにします。